

2013(平成25)年度生物遺伝資源に関する大腸菌小委員会 及びNBRP原核生物運営委員会 議事要旨

日時：2013(平成25)年11月28日(木)14:00~15:30
会場：情報・システム研究機構本部 会議室

出席者：生物遺伝資源に関する大腸菌小委員長 仁木宏典(国立遺伝学研究所)
NBRP 原核生物運営委員会委員長 小笠原直毅(奈良先端科学技術大学院大学)
饗場弘二(鈴鹿医療科学大学)、秋山芳展(京都大学ウイルス研究所)、伊藤維昭
(京都産業大学)、内海龍太郎(近畿大学)、小倉光雄(東海大学海洋研究所)、
片山 勉(九州大学大学院)、川岸郁朗(法政大学)、佐藤 勉(法政大学)、
関根靖彦(立教大学)、戸邊 亨(大阪大学大学院)、矢口貴志(千葉大学真菌
医学研究センター)、吉川博文(東京農業大学)、小林武彦(国立遺伝学研究所)、
山崎由紀子(国立遺伝学研究所) の各委員
欠席者：板谷光泰(慶應義塾大学)、林 哲也(宮崎大学)、田中 寛(東京工業大学)、
吉田健一(神戸大学) の各委員

オブザーバー：文部科学省ライフサイエンス課 中川原係長、同 齋藤係員
佐藤 NBRP 事務局長、NBRP 事務局員
事務局：総務企画課長、研究推進チーム係

議事に先立ち、仁木委員長から生物遺伝資源に関する大腸菌小委員会とNBRP 原核生物運営委員会の背景等について説明があった。また、NBRP モデル原核生物遺伝資源事業の概要についての説明があった。また、国内と国外における分譲数・分譲件数の比較、傾向及び、論文発表状況の把握について補足説明があった。

【議 事】

1. 2012年度と2013年度10月末までの事業実績

仁木委員長から資料に基づき、NBRP 事業の活動実績について以下の報告があった。

- ・ NBRP リソースの種類、総数、提供数について
- ・ 古い栄養要求性の株、P1 ファージ、ラムダファージ等の今後の保存とその必要性について
- ・ 分子生物学会等学会におけるブース展示(広報活動)について

また昨年度からの進展として、フランスの研究者へ枯草菌株二百数十株の分譲を行い、NBRP が国際的にも認められつつあるという実績になった旨の報告があった。

その他以下の討議があった。

- ・ 退職間際や退職後の分譲の寄託について
→所属機関での保存が難しい場合は遺伝研で整理をしてメンテナンスと配布を行っていく。
- ・ 新しいリソースの追加について
→研究者コミュニティにどのように宣伝していくかを今後検討。

2. 2014年度の事業計画

仁木委員長からスライド資料に基づき、2014年度の事業計画について以下の説明があり、今後もリソースの拡充、保存と提供と確実な配布を行っていくことについて了承された。

- ・ 今までの方針に従い、前年度のものを引き継ぎ、安定的に事業を継続していく
- ・ 新規リソースの拡充の一環として、奈良先端大・森研究室で開発されているコレクションの寄託を予定（現在準備中）

3. 枯草菌リソースの拡充策

仁木委員長からスライド資料に基づき、枯草菌 4000 株の欠失株コレクションが海外で出来上がり、アメリカの枯草菌ストックセンターに寄託しているため、来春頃から一括分譲が可能であるとの報告があった。また、手持ちの株の分譲継続については、可能であれば国内向けに限定する等の対応を検討したいとの意見があり、今後も引き続き情報収集を行うこととした。

4. 高校教育機関向けの無料配付について

仁木委員長から、高校の理科の先生より組換え DNA の教材とすることを目的とし、NBRP へ分譲依頼があったが、実費徴収についての意見があり、今回は遺伝研の系統生物センターにおいて無償配付の対応を行った旨の報告があった。他機関の NBRP リソースでは高校教材に関するものは無料としている例もあることから、今後は MTA 等で組換え実験の確認ができたところについては、無償配付を行うこととしたい旨の発言があり、委員会としてこれを了承した。

5. 新大規模リソースの効率的な活用方法について

仁木委員長からスライド資料に基づき、リソースの活用法について、今後はコミュニティとして共同使用ができる国内スクリーニングセンターが必要ではないかとの意見があった。このスクリーニングセンター設置の利点としては、方法の統一、最先端のリソースを使用する場合のノウハウや結果等の情報が集約可能となる、技術開発と一体化した事業の推進が可能になる、との補足説明があった。一方で、NBRP では新規開発を行うことが困難であるため、今後の委員会及びコミュニティにおいて、引き続き意見集約しながら検討が必要との議論があった。

以上